こんなはずでは

現われだした第二組合の矛盾 なかったのに

台理化のテンポがはやめられるにしたがって、その方向はイヤでも第二組合員の上におおいかぶさってきた。そのため、第二組合員の下部には、いまいろいろな形で矛盾があらわれはじめている。この号では各支部にあらわれているこれらの矛盾を具体的な例で出してみたわけである。

無届欠勤の急増

まず、さいきんとくに目立つた現象として表面に出てきているのは無届欠勤が多くなつたことだ。人事の係員でさえ「困つたもんだ」とぼやいている。

第二組合は会社と平和協定を結び生産協力を誓つたにもかかわらず実態はそうである。三池労組の方別スト回避のためか、または届けに行くと職制からイヤな目で見られるためか、あるいは捨ばちになつて休んでいるかその点は分らないが、とに角無届欠勤が多いのは事実である。

そのため職制の出勤督出しが多くなつたが、督出されて出勤しても体がきつくなるからつい休む、すると翌日はざんぎんイヤ味をいわれている。

方別ストの日のことだが、わが方の組合員が用事で社宅事務所へ行つたところ、第二組合員が特休願いを出しにきた。ところが係員が何だかんだといやらのでついに腹立ちまぎれにその第二組合員は「特休出すといかんのですか」「いや、出すといかんということではない」とやりとりをした場句、ようよう特休を出していつた。

今までだつたら第二組合員のごういう姿は見られなかつたが、こんなに変わつた面も出てきている。

一等兵は同じたん

さる四日の方別スト、五日の炭労ストのように連続したとき、三番方のあがりがとても少ない二番方のわが方の組合員はいつている。従来は方別ストの三番方あがりは多かつたのだが……。

第二組合員の一人が「一等兵は同じたん。あんたたち（三池労組員）と同じばい。ゆうけも何もせん」と不満をかこつていたが、不平不満もブツブツ言えたぎつてきたようだ。

必ず故障する機械

さる二十八日の話しだが、三池労組は総評第四次統一行動でストに入り決起大会をひらいた。西原駅から通勤電車に乗つた一番方あがりの二人の組合員がいたが、一人が「今日はとてもきつかつた。スト の日初めて出勤したがこうきつかならこのつぎから出勤せん」とこぼしていた。

すると相手が「そういうな。今日は炭がとても出たげな」と慰めていたが、この慰めかいつこう効きめがなかつたような顔をしていた。

同じく先月末の二十九日のことだが、わが方の坑内機械の人がこういつていた。

「ストの翌日は機械が必ず故障する。真面目にやつてくずすのか無茶に使つてそうなるのか分らぬが、多分無茶苦茶に使つているのだろう。彼らのいう粗山精神も変わつたものだ」と、ぴつくりしていた。

歩増減で騒ぐ組合員

三川支部のある部内が、休憩所に第二組合員がきて、三池労組員にさかんに第二組合の委員への不満をぶちまいていた。その委員は生産推進委員を兼務しそれをカサにきて、とてもきたうそうで係員以上だという。

そして自分のもうけになることはどんどんするが、そうでないと全然しないらしい。さすがは第二組合の委員だけあると、これを聞いた組合員はいつていた。

三月七日ごろのこと、三川鉱の開発で歩増しが少くなりこれでは生活できんと第二組合員が騒ぎだした。委員は一回も今まで報告していない。執行部にぜひ交渉させるということになり、五十名ほど組合におしかけた。ところが執行委員にうまいとこまるめられ、結局職場委員が職制にいわなければならなくなつた。それでも委員は職制にいわないため、九日には一人の委員が組合員から催促されていた。

ある先山のこと

これはある職場のことだが、係員が第二組合の先山に、三池労組員の名を数名あげ、酒も飲ませてあるし話しもしているので、お前が話しをしろ。すぐ答えが出るようにしてあるからと申しつけた。

だが、この先山はそんなあくどいことはできず、話しをせずにいたが、一週間ほどしたらどうしても話さねばならぬように追いつめられたのである。そこで、こつそりわか方の委員にそのことを知らせにきて「私が話すとき、その人たちがイヤといえば私の任務はすむから手配してくれ」といつたので ある。そういう徴候も現われている。

職制の監視強まる

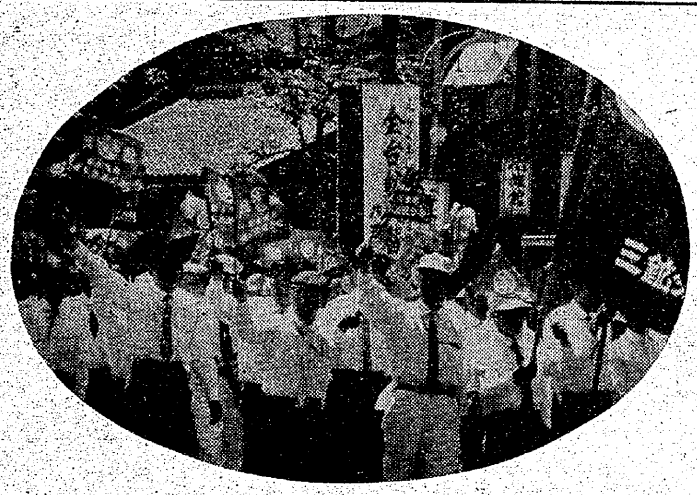
とにかく、さいきん第二組合員へ係員の監視がつよくなつている。組合が組合員を握つているのでなく、職制がつよくなつている。組合員はバラバラにさせられ、合理化がいよいよのしかかつてきている。

第二組合員の目立つた傾向として三池労組の掲示板をよく見ることだ。真実であることを彼らも知つている。掲示板の前に立つ三分の二が第二組合員であり、隣の第二組合の掲示には目もくれないという、おもしろい現象がでてきた。本当のことを求める心が徐々に変つてきているのではなかろうか。

俳句

宮浦支部　永野草平

風邪に臥す夫の乏しき給料うく
貧乏の足しにと子等の芹を摘む
息白く署名運動メガホンを
会社より地所ひきあげられる麦青む
立退きの迫る社宅の春寒し
坑木のくずで彫みし雛飾る
うたた寝に聞く軒端に囀れり
春風や塵寄せ馬車の鈴を振る
うららかや試錐櫓に海風げる
柴垣の蔭に遅るるもの芽ぐむ



昨年のメーデー、市中デモする組合員

メーデーが来た

さあそろつて参加しよう

ことしもメーデーがやつてきた。を行う」ことがきまり、春闘の中全世界の労働者が「万国の労働者で準備にとり組まれてきた。団結せよ!!」とさけんで、この日大地評、荒地評でもすでにメーを祝福する。1実行委員会をつくつて討議を重メーデーは働くものの団結のシねてきたが、ことしのメーデーは ボルであり、働らく仲間たちが固市民、農民、商人もふくめて、それく結ばれたとき、私たちの未来は無それぞれのもつている要求をかかげ限にひらけていく。て闘うという性格のもとに計画がことし、第三十三回メーデーは「たてられ、お祭りさわぎでなく、中央、地方を通じて統一メーデー一歩前進させるためのものとして準備がすすめられている。

大地評では午前十時から笹林公園で開催、同じく荒地評では午前十時から第二小学校（予定）で開催されることになつている。

メーデーは年々「人間らしい生活を要求する労働者の闘い」として守られ発展してきた。ことしのメーデーは家族をふくめた大動員で資本家や政府をふるえ上らせよう晴れた五月の空も、においばかりの青葉も、そよ吹く春風とともに働くものをお祝福する、すばらしい日である。

みんなそろつて参加しよう。

働らく婦人の 中央集会

三池から林田、原さん出席

「豊かな生活、働らく婦人の権利の確立、完全軍縮」をスローガンに、ことしも去る三月八日の第五十二回国際婦人デーから四月十六日まで、第九回婦人月間が行われている。

とくに、今年は第一回の「軍縮のための世界婦人集会」が二月二十三日からオーストリアの首都ワイーンでひらかれ、これに参加する日本代表団の選出カンパニアが全国的に行われて、例年にない活気を呈した。

婦人月間の後半、四月十日の婦人の日から一週間は、労働省などの後援で「婦人週間」が催されているが、十五年前のこの日は日本の婦人がはじめて選挙権を行使した日である。

そして、婦人月間のしめくくりは四月十五日から東京で開かれた「第七回働らく婦人の中央集会」。この中央集会に、三池労組からも林田ハツエさん（三川）、原美代子さん（本所）の二人が婦人部を代表して出席した。

集会は十五日、青山高校での十二

花を植えましょう

ダリヤ咲ジニヤは今から

ぽかぽかと暖かい春になつたとはいえ、差別と低賃金の私たちにとつては楽しいどころではありません。だが、闘いは長期抵抗路線でじつくりと腰をすえて構えねばなりません。

楽しみは自分たちでつくりだすもの、闘いの合間に楽しい花づくりでも……という意味で、季節の園芸メモを、宮浦支部緑花サークルの伊藤さんからうかがつてみました。

四月に植える球根には、ダリヤ、カンナ、アマリリス、グラジオラスなどがあり、タネをまくものにはジニヤ、サルビア、ハゲイトウアギラタン、マツバボタンなどがあります。

その中でも一番手軽にできて、初心者むきの「ジニヤ」をとりあげてみました。

ジニヤは俗に百日草とか、ウラシマといつており、ダリヤ咲、大輪咲、中輪咲、ポンポン咲などと種類も多いが、一番キレイなのはダリヤ咲です。

そこでこのダリヤ咲ジニヤをまず植えてみましよう。

タネは十円位でありまず。まずナエ床をつくつてタネをまくわけですが、ナエ床には全然肥料はやらず、小さい砂を魚箱の中に敷きつめ、その上に土を盛ります。注意することは水をたやさずやることです。そして二十日ほどで本植えができます。

本植えしたら土地の肥えているところなら肥料はいりませんがそうでなくとも肥料は何でもかまいません。下肥えでもいいわけです。しかし、この場合は少し日数をへたものでないといけません。

こうして育てやると七月ごろに美しく開花します。

また、ナエ床にせず直まきでもよいが、できるだけナエ床にした方が育てやすいものです。

詩

黒い塊まり

宮浦　高椋龍生

しわ寄せの
暗い
たまり場に
ひしめく
黒いかたまり。

足をうちはらわれても
打ち払われても
万身の力をこめて
立ち上がらんとする
黒いかたまり。

無数に
飢えと寒さに横たわる
同志のかばねを乗り越え
手をもぎとられても
もぎとられても
はい上らんと
うごめく
黒いかたまり。

黒いかたまりは
やがて
津波となり
しわ寄せの
暗い
たまり場もろとも
光に向つて
打ち上げようとしている。

明日への希望

熊本にて　西川重生

私は黙つて歩きつづける
吹雪の夜も　あらしの日も
私は黙つて歩きつづける
あの山の彼方に
あの雲の下に
私の念願する社会があるから
「ともしび」をかかげて
私は歩きつづける

私は黙つて歩きつづける
バラスをしき　橋をこわし
私の心をくじけさせようとする
ものをしりぞけて
私は黙つて歩きつづける
あの山の彼方に
あの雲の下に
私の念願する
「幸せな社会」があるから
「ともしび」をかかげて
今日も歩きつづける。

私の決意提案

三川支部　T生

組合員の皆さん

私は今日、第三次の政転闘争上京団の皆さんを歓送して感じたところの一端を述べ、共鳴を得たいと思います。

今日までの上京オルグ団は年寄りの組合員が多数だときいていました。大牟田駅で熊本始発のオルグ団をおくつて私が感じたことはたしかに年寄り組が多数のように見受けました。しかし青年層の皆さんも相当数おりました。

見送る人は、奥さんも、年老いたお父さん風の人も妹さんも、兄さんも、弟さんも、小中学校の兄弟も、一家総出で見送つているさまを、この目で見てきました。

口でいい、鍾で書けばこれだけのことです。しかし政転上京団に参加する人、見送る人のはらの中を読みとることができるような気がします。

では年寄り組といわれる人々がなぜ抽せんにまで加つて参加しているのでしようか。

私は思います。二五年、三〇年三五年と炭鉱に働いたが、今の政府や資本家の政策では、二五年、三〇年、三五年の勤務にむくいてくれるものはなく、おれたちは子供や孫までこんな目にあわせたくはない「資本主義がつづく限りやはりダメだ」との気持の発露ではないでしようか。

青年層の人たちは、今の炭鉱労働者としては低賃金にあえぎ、結婚すらできない、それかといつて炭鉱をやめては、敵の攻撃に対してまけることになる。このようなことも一つひとつ皆の力で解消していかねばならないと思います。

そのためには、政策を変え、究極には社会主義をうちたてなければなりません

政転上京団に参加できなかつた者としても、同じ気持であろうと思います。この気持を上京団の皆さんと共に現わすのは何でしよう私たちはまず、

(1)自分自身のいのちを守る保安闘争を強化しよう

(2)ゴウマンな職制支配を排除し、民主職場をつくり上げよう

(3)低賃金と労働強化でコク使されている第二組合員と組夫、請負夫の人たちに真実をしつてもらおう

以上を提唱しさらに強く団結して勝利への努力をつづけガン張りましよう。

仲間ごえ